

登録系のPLSQLの procedure のコール条件を以下のように定めます。

1. 登録専用 PL/SQL

条件を与えて、検索結果をメッセージ配列で返す。

登録においては結果として、OK/NG を返し、NGの場合にメッセージを表示する。

なお、このPL/SQL自体で全ての処理を完結させる必要がある。

(トランザクション制御は、このPL/SQLで自分で対応する。)

登録結果を再度検索したい場合は、JSP画面上で queryタグを用いて再検索してください。

```
CREATE OR REPLACE PROCEDURE YYYY(  
    KEKKA OUT NUMBER,                /* 結果 0 :正常 1 :警告 2 :異常 */  
    ERRMSG OUT ERR_MSG_ARRAY,       /* エラーメッセージ配列 */  
    NAMES    IN VARCHAR2,           /* カラム名チェック用文字列 */  
    SYSARGS IN SYSARG_ARRAY,        /* 登録条件配列 */  
    USEARGS  IN USEARG_ARRAY,       /* 登録データ配列 */  
) IS  
.....
```

```
CREATE OR REPLACE TYPE USEARG AS OBJECT ( ..... );  
/
```

```
CREATE OR REPLACE TYPE USEARG_ARRAY AS VARRAY(XXX) OF USEARG;  
/
```

ユーザー定義オブジェクトの配列は、各プロシージャ毎に作成する。

これは、各引数の個数等は、個別に設定する事とする。

NAMES はカラム名チェック用の文字列です。ここには、USEARGS で定義されているカラム名の順番をカンマ区切りで、設定します。

例 'OYA,KO,HOJO,DYSTR,DYEND'

エンジン側は、上記のカラム名を元にデータを配列に設定しますので、

受け側 (PL/SQL)では、自分自身の定義とチェックするように作ってください。